

キャラクター名
広国 大和 -ヒロコ ヤマト-

プレイヤー名

シンドローム	ブラム=ストーカー サラマンダー	ワークス	UGNエージェントA	カヴァー	高校生
オプション		年齢	18	性別	男
覚醒	約束	衝動	破壊	初期侵食率	31 %
出自	天涯孤独	経験	約束	邂逅	恩人

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	36
肉体	3	1	3			7	行動値	5
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	6
精神	2	0	0			2	戦闘移動	11
社会	1	0	0			1	全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	6		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志	1		調達	1	
運転：二輪車			芸術：モンハン			知識：UGN			情報：UGN	3	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
紅の剣	白兵	7r+6	0	10		HPをLv*2まで減らす
紅蓮烈火斬	白兵	19r+6	0	10	C7 浸食12	HP-5 装甲無視 HP4回復
紅蓮烈火斬Version2	白兵	30r+6	0	12	C7 浸食15	HP-5 装甲無視 HP8回復

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
アライストスーツ【特注ロープ】		5		-1	1R1回 経験点5消費

所持品	
コネ：UGN幹部	
コネ：情報屋	
コネ：ハッカー	
コネ：要人への貸し	
制服	
ローブ	
携帯電話	

合計装甲： 5 合計回避： 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
対抗種【カガリゲネド】	P	N		
東雲 統夜 タイタス	P 友情	N 恐怖		
騎士部 論斗 タイタス化	P 友情	N 不安		
三園 大 タイタス化	P 友情	N 不安		
内藤 厨 タイタス化	P 友情	N 不安		
騎士部 栗風 タイタス化	P 尽力	N 疎外感		
軌龍 蓮 タイタス化	P 尊敬	N 不安		

最大財産P: 4 残り財産P: 0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
コンセプト：BS	3	2	Xジャー	-	-	自動	-	
効果：	C-Lv							
赤き剣	1	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：	白兵武器作成							
鮮血の一撃	5	2	Xジャー	武器	-	対決	-	
効果：	白兵攻撃ダメージ+[Lv+1] HP-2							
渴きの主	1	4	Xジャー	至近	単体	対決	-	
効果：	装甲無視 HP+[Lv*4]回復							
始祖の血統	3	4	Xジャー	至近	自身	自動	100↑	
効果：	ダイス判定+[Lv*2]							
封印の呪	1	2	Xジャー	視界	-	対決	-	
効果：	攻撃が命中した場合、相手をC+1する。							
炎神の怒り	3	3	Xジャー	-	-	-	-	
効果：	判定ダメージ+[Lv+1] HP-3							
無面目	1	-	オート	至近	自身	自動	-	
効果：	オーヴァードである事を隠す							
かしすく歯車	1	-	Xジャー	至近	自身	自動	-	
効果：	難作業をこなす							
かぐわしき鮮血	1	-	Xジャー	至近	自身	自動	-	
効果：	血の匂いで個人を特定する							
ブラッドリーディング	1	-	Xジャー	至近	単体	自動	-	
効果：	血や体液から情報を抜き取る							
熱感知知覚	1	-	Xジャー	至近	自身	自動	-	
効果：	熱を視覚として知覚する							
効果：								

UGNに所属するエージェント。現在より5年前に日本代表(と言っても大したものではなく)UGN幹部としてアメリカへ渡り、いわゆる修行の旅(仕事)をしてきたのだ。UGN本部がある事もあってかFHとの戦闘はあまりなかったが、彼にとって良い経験になっただろう。

このキャラの本名を知っているのは数えるほどしかない。彼が本名を隠すようになったのは、若かりし頃のUGN中枢評議会穏健派の【テレーズ・ブルム】との出会いが切っ掛けだった。今から8年前。テレーズ・ブルムが親の仕事の都合により、一時期日本に引っ越してきたところから始まる。当時7歳でありながら異様なまでの頭の良さから、転校先の小学校で他生徒に馴染むことなど出来るはずもなく。そんな矢先【広国 大和】(以後ヒロコ)と言う少年の存在を知る。それが不知火の本名だ。当時10歳のヒロコは小学高学年だったが、引っ込み思案な性格のせいか友人は誰一人もいなかった。至って普通の少年の様に、テレーズ自身見えていた。しかしUGNはヒロコがオーヴァードになる可能性を察知していた。それはFHも同じだった。

事が起きてしまったのは秋初旬。ついにFHが動いたのだ。いち早くその事を察知したテレーズは情報操作で時間を稼ぎつつヒロコを連れ、UGN支部に救援を要請。だがどんなに情報をすり替えても、ピンチの状態には変わらなかった。救援が来ると信じながらテレーズは待った。待っている間、ヒロコからいくつもの質問をされた。「君は何者なんだ?」「どうして奴は君を虐めるんだ?」「あの力はなんなんだ?」「ここは安全なのか?」「君の傷は大丈夫なのか?」などいくつもの問いに答えていたテレーズだったが、その中でも彼女が最も忘れられなくなった問いがある。「・・・死んであげようか?僕が死ぬば、君はもう奴に虐められないんだろ?」そのときのヒロコの瞳は。既に、死んでいた。

彼女は答えた。「死ぬくらいなら、戦って生きる。」と。この時二人の間には、確かな絆が生まれた。荒唐ビルの中に隠れていた二人だったが、遂にFHがやってきてしまった。UGNの救援は、間に合わない。